

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第12巻

<https://doi.org/10.15017/4403545>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 12, 2016-03. TENDEC Office
バージョン：
権利関係：



11. おわりに

国際医療部が発足しました

平成 27 年 4 月 1 日に九州大学病院に国際医療部 (iMed) が誕生しました。国際医療部は、アジア遠隔医療開発センター (TEMDEC) のみならず、国際患者の診療を支援する国際診療支援センター (IPAC) および、海外からの留学生や視察の受け入れなどの国際的な医療・医学活動連携を推進する海外交流センター (OVEX) を総括し、九州大学の医系キャンパス全体の国際化を視野に入れて活動する恒久的な部署として設置されました。

TEMDEC を今日の姿にまで発展させ、さらに iMed を発足させた清水周次先生は、平成 28 年 1 月 1 日に iMed の部長・教授に就任し、この TEMDEC の活動を含めて、iMed 全体をリードすることとなりました。

活動開始からわずか約 13 年間で TEMDEC がこのように急激に発展したのは清水先生をはじめとする TEMDEC スタッフの頑張りのみならず、世界中に存在するネットワークの共有者(医療者・エンジニア)のご協力の賜物です。また、TEMDEC の顧問となっていたいただいた歴代病院長の水田祥代先生、久保千春先生 (現総長)、石橋達郎先生、および初代の TEMDEC センター長を務められた田中雅夫先生をはじめとする、多くの先輩方のご薫陶のお陰でもあります。さらに、TEMDEC 立ち上げ時期に多大なご協力をいただきながら夭折された平原正樹先生 (情報通信研究機構)、松方純先生 (国立情報学研究所)、牟田耕一郎先生 (九州大学) を忘れることは出来ません。

そんなことを書きながら、自分は何をしていたか?と問われると、毎年この年次報告書の「あとがき」を書き続けたことぐらいしか思い出せず、恥じ入るばかりです。その一方で、清水先生が私に「あとがき」を託し続けて下さっているのは、戦におけるいわゆる「殿 (しんがり)」の役割を果たすように、ということだろうと勝手に信じております。つまり、清水先生は先頭から、私は後ろから TEMDEC / iMed の発展をよく考える、ということなのです。私の勝手な思い込みではありますが (笑)。

そこで、これからの私の TEMDEC / iMed における在任期間は、清水先生の後継リーダーの養成に精一杯努力をしようと考えています。とても大変な任務だと感じています。そのためにも、どうかこれからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成 28 年 3 月

九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター

中島直樹